

- 24 「あなたはこの民が、『【主】は自分で選んだ二つの部族を退けた』と話しているのを知らないのか。彼らはわたしの民を侮っている。『自分たちの目には、もはや一つの国民ではないのだ』と。」
- 25 【主】はこう言われる。「もしも、わたしが昼と夜と契約を結ばず、天と地の諸法則をわたしが定めなかったのであれば、
- 26 わたしは、ヤコブの子孫とわたしのしもべダビデの子孫を退け、その子孫の中から、アブラハム、イサク、ヤコブの子孫を治める者を選ぶということはない。しかし、わたしは彼らを回復させ、彼らをあわれむ。」

\* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



希望の光バプテスト教会

2021年 10月 17日 (日)

礼拝メッセージノート

「 永遠なる神の選び ～ダビデ契約と祭司制度 」

| エレミヤ書講解-68 エレミヤ書33:14~26 他 小野寺 望 牧師

【 エレミヤ書 33章 】

- 14 「見よ、その時代が来る——【主】のことば——。そのとき、わたしはイスラエルの家とユダの家に語ったいつくしみの約束を果たす。
- 15 その日、その時、わたしはダビデのために義の若枝を芽生えさせる。彼はこの地に公正と義を行う。
- 16 その日、ユダは救われ、エルサレムは安らかに住み、こうしてこの都は『主は私たちの義』と名づけられる。」
- 17 まことに【主】はこう言われる。「ダビデには、イスラエルの家の王座に就く者が断たれることはない。
- 18 また、レビ人の祭司たちには、わたしの前で全焼のささげ物を献げ、穀物のささげ物を焼いて煙にし、いけにえを献げる者が、いつまでも絶えることはない。」
- 19 エレミヤに次のような【主】のことばがあった。
- 20 【主】はこう言われる。「もしもあなたがたが、昼と結んだわたしの契約と、夜と結んだわたしの契約を破ることができ、昼と夜が、定まった時に来ないようにすることができるのであれば、
- 21 わたしのしもべダビデと結んだわたしの契約も破られ、ダビデにはその王座に就く子がいなくなり、わたしに仕えるレビ人の祭司たちと結んだわたしの契約も破られる。
- 22 天の万象は数えきれず、海の砂は量れない。そのようにわたしは、わたしのしもべダビデの子孫と、わたしに仕えるレビ人を増やす。」
- 23 エレミヤに次のような【主】のことばがあった。

(4ページへ続く)

## ◆ はじめに ～イスラエル民族だけが、なぜ選びの民なのか？

### 1. 「選民」思想への反発：反ユダヤ主義、置換神学、歪曲された報道

- (1) 選びの民を否定する者は、神の方法に反対することである。
- (2) イスラエルの選びの確かさは、聖書の主張であり、歴史が証明している。
- (3) その選びが確かだから、異邦人クリスチャンも救いの確かさを確信できる。

## ◆ メッセージのアウトライン紹介とゴール

### | 神の選びの確かさに感謝する

\*このメッセージは、イスラエル民族から神の選びの確かさについて学ぶものである。

## I ダビデ契約の再確認 (14～17節) = = = = =

### 1. 概要

- (1) 「その日」預言的将来を指す。メシア的王国にて成就
- (2) ダビデ契約が有効であることの再確認 (2サム7章、1歴17章)

### 2. 再確認の内容

- (1) イスラエルの家とユダの家に語ったいくしみのことば  
メシアによる統治の約束
- (2) 主はダビデ契約に基づいて、「正義の若枝」を芽生えさせる。
- (3) ダビデの子孫であるメシア (イエス・キリスト) が、正義と公正によって  
国を統治する。メシア的王国 (千年王国) の状態。
- (4) これらの結果、安らかな町、「主は私たちの正義」と呼ばれる。



## II レビ的祭司制度の将来 (18～22節)

### 1. 神殿崩壊に伴う不安

- (1) エルサレム崩壊 (神殿崩壊) により、レビ人・祭司たちの立場はどうなるか

- ① レビ的祭司制度は永遠であることを再確認する (民25：10～13)
- ② 祭司たちの活動再開には、神殿再建が欠かせない。  
\*つまり、メシア的王国では新しい神殿が再建される。

- (2) レビ的祭司制度の再開

- ① エルサレム帰還後に再建された第二神殿における奉仕  
\*これはみこころではあったが、この預言が指し示す神殿の完成形ではない。
- ② エゼキエル書の最後の9章 (40～48章)  
\*この箇所が示す神殿は、これまでにないものであることは明確である。  
\*新しい神殿の姿と、レビ人たちの役割の詳細、いけにえの継続

## 2. いけにえの理由とメシア的王国の秩序

- (1) 新しい神殿でも、いけにえがささげられる。

- ① 罪の赦しのためでなく、神を礼拝するためのもの。  
\*罪の赦しは、メシアの死によって成就した。

- (2) この当時の人々の理解は、教会時代 (奥義) について認識していない。

- ① メシア的王国はさほど遠くない内に来ると考えただろう。
- ② 新しい契約の下で、いけにえや祭司制度は存在する。イザ66：21～23など  
\*それらの祭儀、秩序はモーセの律法とは違う力で統治される。
- ③ しかし、帰還後にいけにえをささげる理由は、まだ「赦しのため」である。

## III 神の選びの永遠性 (23～26節)

### 1. 主はイスラエルを退けたか

- (1) イスラエルの選び (民族的選び)

- ① 選ばれたからといって、自動的に救われているのではない。
- ② 救いはあらゆる時代を通して、信仰と恵みによる。
- ③ 信仰のないイスラエル人は個人的には滅びる。

- (2) イスラエルの内の信仰のある者たちが、「真のイスラエル」である。

### 2. イスラエルの選びとは

- (1) 神がイスラエルに与えた使命は、永遠に変わらない。

- ① つまり、それが全うされる前にイスラエルが滅ぼされることはない。
- ② 民の認識：「自分たちは神も見捨てられた」  
\*退けられた二つの部族とは「イスラエルの家」と「ユダの家」

- (2) 神の選びの確かさが示された

- ① 夜と昼の法則、天地運行の法則が変わらない限り、神の契約は破棄されない。  
\*彼らの選びに関して、神が結んだ契約は普遍的 (無条件) 契約である。
- ② まとめると、エルサレム、ダビデ契約、神殿と祭司制度の継続を通して、  
神はイスラエル民族が守られることを論じてみせた。

## ◆ まとめ：異邦人クリスチャンが信じる確かさ

### 1. 異邦人クリスチャンにとってどのような意味があるか

- ① イスラエルが神に選ばれたように、クリスチャンも神に選ばれた者である。

### 2. 天地創造の前から選ばれていたのである。エペ1：4～5

- ① すべての人が、イエス・キリストによって招かれている (ロマ8：30)  
\*信じていない人たちについて、選ばれていないとは言っていない。
- ② 選びの特権は、ことばにし尽せない素晴らしさを持つ。  
\*誤りなき神様は、信じる信仰を与え、このような私たちを救ってくださった。  
\*神様の思いに信頼し、みこころに沿うように歩んでゆきたい。